

vivo

水戸芸術館音楽紙[ヴィーヴォ]

11&12

NOVEMBER DECEMBER
2009

CONTENTS

水戸室内管弦楽団第78回定期演奏会	1~3
アートタワーみと スターライトファンタジー	
第14回クリスマス・コンサート	3
水戸の街に響け! 300人の《第九》	3
クリスマス・プレゼント・コンサート 2009	4
最近の公演から	5
インフォメーション	6



写真:水戸室内管弦楽団第67回定期演奏会
(2006年12月7、8、9日から)

小澤征爾 & MCO — 名手たちによるソロとアンサンブルの饗宴

● 11/25(水)、26(木)、27(金) 水戸室内管弦楽団第78回定期演奏会

今年2度目の登場となる小澤征爾指揮の第78回定期演奏会。水戸室内管弦楽団創立20周年を目前にして演奏されるのは、ハイドンの協奏交響曲、モーツァルトのホルン協奏曲第3番、そして交響曲第39番。深まりゆく秋に、音楽をさく喜びを心から味わえるような曲目が並びました。(尚、チケットは完売いたしました。誠にありがとうございました。)

MCOならではの選曲

最初に演奏されますのが、ハイドンの協奏交響曲。「協奏交響曲(サンフォニー・コンセルタンツ)」とは18世紀末の人気曲種で、複数の楽器による独奏とオーケストラとの合奏を組み合わせた形式です。この作品ではオーボエ、ファゴット、ヴァイオリン、チェロによる華やかなソロあり、ソリストたちの絶妙なかけあいあり、オーケストラもその輪に加わってのアンサンブルありと、まさに聴きどころが満載! 気心知れた仲間たちの楽しい会話をさくようなこの作品は、互いをよく聴きあう「室内楽の精神」をもつ水戸室内管弦楽団にぴったりといえるでしょう。

豪華なソリスト陣

それではソリストの皆さんをご紹介します。オーボエ奏者のアレクセイ・オグリントチュクは、アムステルダム・ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団の首席奏者。彼は輝くような音楽性とテクニックを持ちあわせた若き俊英です。ファゴットは、小澤音楽顧問の信頼も篤いメンバーのダグ・イェンセン。ヴァイオリンは、卓越した音楽的センスで強い存在感を示すMCO若手メンバーの一人、川崎洋介。チェロは、あの東京クワルテットを30年間リードし、

2002年からはMCOの中心メンバーとして活躍する原田禎夫です。さてこの弦の二人といえば、フェデリコ・アゴ스티ーニとジェイムズ・クライツといういずれも世界的な奏者と共に、アミーチ・クアルテットとして活動していることでもおなじみですね。水戸芸術館で今年から本格的に始まった教育プロジェクト「MCOアカデミー」では彼らが講師を務め、ハイドンの弦楽四重奏曲をめぐる熱いレッスンが行われました。来年は三月末から四月にかけて開催予定です。

バボラークのホルン協奏曲録音も遂にフィナーレ

さて、モーツァルトがホルンのために4つも協奏曲を残しているのは、名手ヨーゼフ・ロイトゲブの存在があったからという話は有名ですが、今回第3番でソリストをつとめるのは、今世界で最高のホルン奏者といっても過言ではない、MCOメンバーのラデク・バボラークです。そして遂にこの曲をもって、モーツァルトの全ホルン協奏曲録音が達成されます。バボラークとMCOによる、あらゆるホルン協奏曲の中でも傑出した作品とされるこの第3番。この秋必聴の名演になることは間違いありません。

小澤&MCOによる渾身の第39番

モーツァルト・プロジェクトとして、順調に後期大交響曲の演奏と録音を進めている小澤氏とMCO。この第39番は1997年にも演奏していますが、今また気持ちも新たにレコーディングに取り組みます。当時の一般的な楽器編成ではなく、オーボエのかわりにクラリネットが用いられ、ふくよかで美しい響きにあふれた本作品は、マエストロいわく特に

演奏難度が高いというなかなか手強い存在でもあります。第75回定期でのメンデルスゾーン特集を経て、MCOは再びその大切なレパートリーであるモーツァルト作品に帰ってきたのです。マエストロ小澤と水戸室内管弦楽団が満を持して臨む珠玉の39番をどうぞお聞きのがしなく!

9年ぶりの久慈公演

東北のMCOファンの方、お待たせしました! MCOは、今年開館10周年を迎えた岩手県久慈市のアンバーホールで11月29日に公演を行います。久慈の名産、琥珀(Amber)を名前にいただくホールで、たくさんのお客様と出逢うのが楽しみです。(お問い合わせ:久慈市文化会館 TEL 0194-52-2700 ※尚、チケットはすでに完売しております。)

MCOに新メンバーが仲間入り!

続いて朗報です! 第77回定期より、MCOにコントラバス奏者の池松 宏さんが新しくメンバーとして入りました。池松さんはNHK交響楽団で首席奏者として活動されたあと、2006年に拠点を移し、ニュージーランド交響楽団で首席に就任されました。池松さんはオーケストラだけでなくソロやアンサンブルなど多彩な分野で活躍しており、まさに世界のトップ・コントラバス奏者の一人として注目されている存在です。(水戸芸術館ホームページでは、池松さんへのインタビューも掲載予定です。お楽しみに!)

今回は、この演奏会でソロをつとめるラデク・バボラークさん、そして原田禎夫さんへインタビューを行いました。ぜひ一読ください。 《高巢》



ラデク・バボラーク



アレクセイ・オグリントチュク



ダーグ・イェンセン



川崎洋介



原田禎夫

●ラデク・バボラーク インタビュー

MCO第77回定期演奏会にはピアニストである母親と水戸を訪れたバボラークさん。インタビューでは作品への思いの他、プライベートについてのお話も伺いました。

—いよいよモーツァルトの全ホルン協奏曲録音も今回で最後ですね。今のお気持ちをお聞かせください。

まずマエストロ小澤・水戸室内管弦楽団と、モーツァルトのホルン協奏曲すべてを演奏するチャンスを与えていただき、とても嬉しく思っています。何といってもホルン奏者にとっては最高の作品ですから！モーツァルトが書いた他の楽器の協奏曲は1曲しかないこともあります。ホルンには4つもあり、それ以外の作品もあるので本当に幸せです。

私はマエストロのもと、モーツァルトの協奏曲を演奏するのを心から楽しんでます。そして今回取り上げる第3番が、ホルン協奏曲録音の締めくりとなります。これは私の人生において特別なものになるでしょうし、とても大きなステップになると確信しています。全てのホルン奏者がこの作品を録音するチャンスを掴めるわけではありませんから、しかもこんな素晴らしい指揮者、オーケストラと一緒に！

—モーツァルトのホルン協奏曲第3番の魅力をお話いただけますか？

第3番の第2楽章は、私が人生で最初に演奏したホルン協奏曲です。8歳でホルンを始めたのですが、これを演奏したのが9歳の時でした。先生に、これは若い人が演奏するのにとてもいい作品だからと勧められて吹き、それから第3・第1楽章と、2～3年の間にすべての楽章を吹きました。ですので、もう20年以上付き合っているこの特別な作品のことは熟知しているつもりです。もちろん作品と自分の関係は変化しましたよ。もっと若い時は、この作品が内に秘めているものや、モーツァルトがいかにか天才であるかを理解するのは難しかった。この作品は一見単純ですが、この単純さこそモーツァルトへの神の贈りものだと思っています。

モーツァルトの作品を演奏するのは本当に楽しいです。有名な話ですが、彼は楽器に対する感覚が素晴らしい。ホルンという楽器やその奏者に対する理解が実に優れていて、この協奏曲も本当によくできていると思います。一方ハイドンは、演奏者にとっては技巧的で扱いにくいという感じです。二

人とも古典派の作曲家ではありますが、モーツァルトの協奏曲にはホルンのロマンティックな持ち味がよく表れています。モーツァルトの作品は、演奏していてとても気持ちがいいですね。

—バボラークさんは今年の12月にはベルリン・フィルをおやめになるそうですね？

はい。来年にはブラハに戻ってフリーのソリストとして、また水戸のメンバーとして水戸でも活動していくと考えています。

—時間があるときはどんなことをしていますか？

毎日ホルンを演奏するわけではないですが、ピアノを弾いたりカデンツァを書くなど何かしら音楽に関わることをしています。料理もしますよ！

—ご家族も音楽をやっているのでしょうか？

家族とは一緒に室内楽アンサンブルをしたりします。私の妻はチェリストで、8歳の娘は音楽学校で歌っています。ただ彼女に将来プロの音楽家になるよう勧めるかはわかりません。私自身は音楽家になる以外は考えられませんが、プロの音楽家の生活というのは、たくさん旅行できて楽しい反面、いつも荷物をもって旅行ばかりで、放浪生活みたいですから。

だけど子どもにはいつか、何か楽器を演奏できるようにしてほしいですね。大勢の人前での演奏やキャリアといったことは、それほど大事ではないんです。それよりもただ、家で友達のために演奏するなど、一緒に音楽を楽しんでいきたいと思っています！

—素敵なお話をどうもありがとうございます。

《聴き手・訳・編集：高巣》

●原田禎夫 インタビュー

続いてMCOメンバーであるチェリストの原田禎夫さんに、協奏交響曲の演奏にあたってのお気持ち、チェロとの出会い、音楽に対する思いなどについて伺いました。

—原田さんは東京クワルテットで30年活動し、その他世界各地でオーケストラやアンサンブル、後進の育

成など様々な活動をされています。そんな原田さんにとって水戸室内管弦楽団はどんな存在ですか？

僕は、クワルテットの活動をしていた時には年間135～140回ほど演奏会があって、旅行ばかりで他の仕事はできなかったんです。MCOでは2001年から活動していますが、ここではその大きさからして室内楽をやっているという意識がもてるし、コミュニケーションもできてとても楽しいです。ここには自分たちで音楽を創りあげていくという感覚があるのです。それに僕が昔やっていたクワルテットに近いので、アットホームな感じがしています。

—今度の定期ではハイドンの協奏交響曲でソロを演奏していただきます。

本当はやりたくないんです(笑)。あれね、他の楽器はたいしたことないけど、チェロはかなり弾ける人でも大変というくらい難しい曲だね。古典の形式を持っているから隠れるところがない。出すものが全部そこに出てきてしまう。ハイドンの弦楽四重奏は下で支える感じで演奏するけど、これはもう全く逆で、ヴァイオリンより高い音を出して弾くようなところがある。だからチェロ弾きが嫌がる曲なんです。ベートーヴェンの三重協奏曲(ピアノとヴァイオリン、チェロのための)もそう。ピアノとヴァイオリンはどうってことないけど、チェロはやたらと難しい。そういうわけで今から憂鬱なので、もしかしたら本番に来ないかもしれないです(笑)。

—お客様にとっては聞きどころ満載の楽しい曲ですよ。

いや、曲としては素晴らしいんです。あざやかに弾かなければいけないので、余計にプレッシャーです(笑)。だけどチャレンジしてみようと思いました。

—この曲の特徴は？

この作品は、オーケストラとソロが本当に室内楽をやっている感じの曲です。協奏曲にはソリストがいて、オーケストラと関係なく音楽をやっても成り立つようなこともあるけど、この作品ではそうはいかない。きちっと音楽を作らなければならない難しさがあります。それと独奏楽器ですが、オーボエとファゴット、そしてヴァイオリンとチェロという対照的な楽器の組み合わせが面白いですね。ハイドンもそういうことを考えて作ったのでしょう。

—原田さんのチェロとの出会いについてお聞かせください。

父がNHK交響楽団のチェロ弾きで、小さい時に何となく父の真似をしていたのです。あの頃はまだ掃除機などない時代で、はたきと箒でチェロを弾く真似をしていたみたい。兄貴にはヴァイオリンを渡して、僕も少しそれを弾いたけど本当に嫌だった。彼はその頃、まだ小さいくせに「音楽は自分でやるものじゃなくて聞くものだ」とはっきり言っただけ。そんなふうには兄貴は自分の考えをはっきり持っていた。絵も上手だったしね。彼は版画家だけど今でも音楽は好きで、仕事中でも必ずクラシック音楽を聞いていて、音楽会もよく来ていました。僕は次男坊で親父にかわいがられて、そちらの世界に自然と入っていったという感じ。

—チェロをおやめになりたいと思ったことは？

今、思っていますよ(笑)。ただ振り返ってみると、これまで斎藤秀雄先生に怒られながらやってきたし、親父はチェロ弾きだけど自分はあまりうまくならないというフラストレーションもあった。だけど親にがみがみ言われることはあまりなかった。あそこでいろいろ言われていたらたぶんやめていたと思う。だけど親父は大きい気持ちで見えてくれた。つらいと思ったことは何度もあるけれど、不思議なことに、チェロをやめようという気分にはならなかったですね。

今、年を重ねてきて楽しいのは、自分で勉強している時。若い子は人前で弾きたいというのがモチベーションになるけど、僕にとっては勉強する時間が実に楽しい。でもやっぱり目的がないとね。ただ勉強するというのはなかなか難しいから、コンサートを作ったりリサイタルを時々やったりする。昔は勉強するのが苦痛なときもあったけど、今はその時間がとてもいいなと思います。いろんなことを考えたりして。そうすると違ったものが見えてきたりする。そういう楽しさがあります。

—原田さんにとって音楽とは？

僕は、音楽というのは人とのコミュニケーションだと思う。この前、山形で小さい音楽会をやったのだけど、本当にいいお客さんだったのね。その時、こちらが一生懸命何かを語りかけるのを、むこうも感じているのがよく伝わってきた。そんな時「ああ音楽ってこういうものなんだ」と思った。演奏がまじい人でも、そういうものがあれば音楽でコミュニケーションできるのを感じた。だから音楽を特別に感じる必要もないし、素直に自分の思った気持ちで聴けばいいと思う。音楽の力ってすごくて、悲しい時にベートーヴェンの弦楽四重奏をやると救われたりする。音楽はやはり人とのつながりなんです。演奏していても会話があるから面白いし、それがなければつまらない。僕の中の音楽は、ただ自分の中に

閉じこもってやるようなものではないのです。音楽には人を助ける力があるし、自分が助けられるときもあります。

—読者の皆さんへむけて、あらためてMCOの魅力をお話してください。

ここには普通のオーケストラとは違う特徴があります。ここの一つの土台である小澤さんは室内楽を大事にしている、今でも子どものために講習会などをやっているけど、「音楽には、指揮者がいなくてもコミュニケーションがなければいけない」と考えてやっている。それがここ一番の特色じゃないかな。もちろん小澤さんが指揮しているのだけど、彼を通じてみんながコミュニケーションする。それがあるとないのではお客さんに伝わるものが全然違うからね。小澤さんがこうやりたい、というのを消化して、こちらみんなそれを感じて何かやる。ここは少ない編成だから特に伝わりやすい。だから、そういうところを見てもらえるのもっと面白く聞けると思います。

—楽しいお話をどうもありがとうございました。

《聴き手・編集：高巢》

アートタワーみとスターライトファンタジー

● 12/5(土) 第14回 クリスマス・コンサート [市内小中学校 芸術館コンサート]

水戸芸術館のタワーや建物、そして水戸駅前などをライトアップする冬の風物詩「アートタワーみとスターライトファンタジー」。その関連企画として、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を発表する「クリスマス・コンサート」を今年も開催します。今回は19校、23団体、およそ800人の子供たちが参加予定で、金管合奏、吹奏楽、器楽、合唱などが披露されます。入場無料です。皆さまのご入場をお待ちしております。

《中村》

●●● 参加校 ●●●

小学校 …… 茨城大学附属小(合唱)、上中妻小(金管合奏)、五軒小(合唱)、五軒小(吹奏楽)、酒門小(金管合奏)、常磐小(吹奏楽)、浜田小(金管合奏)、堀原小(金管合奏)、双葉台小(金管合奏)、柳河小(器楽合奏)、吉沢小(金管合奏)、渡里小(金管合奏)

中学校 …… 赤塚中(吹奏楽)、茨城大学附属中(合唱)、石川中(吹奏楽)、千波中(吹奏楽)、千波中(ミュージックベル)、第四中(吹奏楽)、第五中(吹奏楽)、第五中(ビッグバンド)、双葉台中(器楽合奏)、双葉台中(吹奏楽)、見川中(吹奏楽)

希望に満ちた〈第九〉の歌声が、今年も水戸の年末を彩ります。

● 12/13(日) 水戸の街に響け！ 300人の〈第九〉

1999年、2000年、そして2003年からは毎年開催し、今年で9回目の開催となる「水戸の街に響け！ 300人の〈第九〉」。師走の水戸の風物詩として、ますます市民の皆様の間に定着してきました。

それにしても、日本人はなぜ年末になると〈第九〉を歌い、また聴くのでしょうか。書物やインターネットを見るとさまざまな説が流布しており、〈第九〉の日本での演奏史や戦後の社会情勢の影響などが指摘されてもいます。

しかし、一番の理由は、〈第九〉の音楽そのものにあるのではないのでしょうか。“喜びにみちた調べにとも

に声を合わせよう”と呼びかけるシラーの頌歌「歓喜に寄す」をテキストにベートーヴェンが作曲した〈第九〉は、人類の理想的なあり方を高らかに歌う合唱付きの、前代未聞の交響曲だったのです。この“特別な交響曲は、ヨーロッパでも、戦争で破壊されたウィーン国立歌劇場再建時(1955年)やベルリンの壁崩壊時(1989年)など、特別な時に限って演奏されています。

私たち日本人にとって年の瀬は、一年を締めくくりに、新たな年を迎えるためのとても大切な時期です。日本で年末に〈第九〉が盛んになるわけは、この特別

な節目を迎える日本人の感性に、〈第九〉の音楽の持つ性格がぴったりと一致するからではないかと私は考えています。

今年も水戸芸術館には300名を超えるコーラス参加者が集まり、9月から練習に励んでいます。この大合唱に参加するそれぞれの人の思いが大きな結晶となり、聴きにいらっしやる皆様の年の瀬を美しく彩ることでしょう。どうぞお楽しみに！

※公演の詳細は同封のチラシをご覧ください。

《関根》



アートタワーみとスターライトファンタジー
第13回クリスマス・コンサートから



水戸の街に響け! 300人の〈第九〉2007から



クリスマス・プレゼント・コンサート2008から

聖夜に、祈りと祝福の音楽を捧げます。

● 12/23(水・祝) クリスマス・プレゼント・コンサート2009

畑中良輔氏の楽しいトーク、そして多彩な出演者とプログラムでお贈りするの、水戸芸術館のクリスマス・プレゼント・コンサートです。今年も、心温まる7つのステージを聖なる夜に捧げます。

1. 〈クリスマス・オラトリオ〉三大アリア集

昨年の「クリスマス・プレゼント・コンサート」でも取り上げたヘンデルの〈メサイア〉と双壁を成すクリスマス音楽の傑作がJ.S.バッハの〈クリスマス・オラトリオ BWV248〉です。非常に規模の大きな作品で、6つの教会カンタータから構成されています。初演の際は1734年のクリスマスの日から翌年の顕現節(1月6日)にかけての6日に分けて演奏されました。主の降誕の意義、そして神への賛美が、輝かしく歌い上げられています。今回の演奏会では、アルト歌手による3つの名アリア〈備えよ、シオンよ、心からなる愛もて〉、〈眠りたまえ、わが尊びまつる者〉、〈わが心よ、この幸いなる奇蹟をば〉を皆様にお届けします。

出演は、栗林朋子さん(アルト)。東京芸術大学大学院を修了後、ベルリンに留学。現在はオペラをはじめ、オーケストラとの共演、ソロ・リサイタルなど幅広く活躍されています。特に彼女は宗教音楽の独唱で高い評価を受けており、それだけに今回のステージは本当に楽しみです。伴奏を務めるのは、声楽や合唱のピアノ伴奏のスペシャリスト・久邇之宜さんです。

2. ヴァイオリンが紡ぐ甘美のセレナーデ

セレナーデは元来、恋焦がれる女性の家の窓辺で、その心のうちを打ち明けるために奏される夕べの音楽です。このステージの最初に演奏されるのは、シューベルトの歌曲集〈白鳥の歌 D.957〉の第4曲のセレナーデです。シューベルトの歌曲の中でも、最も親しまれている作品の1つです。続く3曲はドリーゴ、トゼリ、ブラーガというイタリアの作曲家たちによる情趣溢れるセレナーデです。これらの曲のオリジナルはすべて歌曲なのですが、今回はヴァイオリンによる演奏で、その優美な旋律をじっくりとお楽しみいただこうと思っています。

出演は、小澤征爾氏もその実力を認め、水戸芸術館専属の水戸室内管弦楽団の演奏会(第3回ヨーロッパ公演[2008年]や最近では今年10月、11月の第77、78回定期演奏会など)でエキストラ奏者として出演を重ねている若きヴァイオリニストの島田真千子さんです。ピアノ伴奏は、かつてこの「クリスマス・プレゼント・コンサート」で現代作曲家・メシアンの厳粛で力動的な

作品の演奏を5年にわたり披露してくれた水戸出身の才人・中村佳代さんです。

3. 小原 孝のピアノ・ファンタジー

11年目を迎えたNHK-FMの「弾き語りフォーユー」や最近ではNHK教育テレビ「趣味悠々 小原 孝の楽しいクラシックピアノ」など、テレビやラジオでも大活躍のピアニスト・小原 孝さんが水戸芸術館のステージに登場します。小原さんが演奏するのは、ご自身がピアノのために編曲したチャイコフスキーのバレエ音楽〈くるみ割り人形〉。このバレエの物語はクリスマス・イブの夜を舞台にしています。少女クララがドロッセルマイヤーおじさんから「くるみ割り人形」をプレゼントされます。クララは、「くるみ割り人形」が創り出す夢の世界で、ねずみと戦争をしたり、雪の精が踊る松林や魔法の城やお菓子の国を訪れたりします。クリスマスの時期になると、世界各地で、様々な演出で上演される〈くるみ割り人形〉。今年はどうぞ水戸芸術館で、小原 孝さんの幻想的なピアノ演奏で、この作品をご堪能ください。

4. クリスマス・プレゼント・コーナー

毎年恒例のプレゼント・コーナーです。今年はどうぞどんな景品が登場するのか? どうぞお楽しみに!!

5. おどろきのコラボレーション!

《さて、何が出てくるでしょう?》

昨年水戸芸術館で開催した「茨城の名手・名歌手たち 第19回」公演で、この上なく鮮烈なステージを繰り広げ、畑中良輔氏も大絶賛した水戸出身の尺八奏者・小林 幹さんとピアニスト・若井優也さんによるコラボレーションです。

新しい世代の優れた才能が、新しい音楽の地平を切り拓きます。さてさて、当日はどのようなステージが出現するのか? どうぞご期待ください!!

6. ヴェリズモ・オペラの華

庶民の日常生活を誇張しないで簡潔直截に描こうとした、イタリア・オペラの1890年頃から20世紀初頭にかけての新傾向であるヴェリズモ・オペラの代表作、マスカーニの〈カヴァレリア・ルスティカーナ〉のステージをお贈りします。シチリアのとある村。村娘サントウツァは不幸のどん底にありました。彼女はトゥリッドゥを愛し、妊娠までしているのに、トゥリッドゥは、今やア

ルフィオの妻となっている元の恋人ローラとよりを戻していたのです。サントウツァは怒りのあまり、トゥリッドゥとローラの仲をアルフィオに告げてしまいます。アルフィオは激怒し、復讐を誓います。そして、アルフィオはトゥリッドゥに決闘を申し入れ、アルフィオの誓いが成し遂げられて幕となります。

出演は国際的に活躍するわが国が誇る名ソプラノ・小濱妙美さんと将来を嘱望される気鋭のテノール歌手・岡田尚之さんです。小濱妙美さんは、エリーザベト・シュヴァルツコップフに才能を認められ、1984年からスイスに留学。88年のパヴァロッティ・コンクールや90年のチャイコフスキー・コンクールなど数々のコンクールに入賞し、以来、国内はもとよりヨーロッパ各地の歌劇場などで活躍しています。水戸芸術館ではこれまでに「オペラの花束をあなたへ14—ヴァーグナーの祭典(2002年)」や「クリスマス・プレゼント・コンサート2007」などに出演。魅惑的な歌声を披露してくれています。テノールの岡田尚之さんは東京芸術大学大学院、新国立劇場オペラ研修所を修了し、イタリアへの留学を経て、今後の活動に大きな期待が寄せられている俊英です。畑中良輔氏も太鼓判を押す、テノールの新しい才能にぜひご注目ください。

7. キャロルに寄せて贈る08年のクリスマス

演奏会の締めくくりは、夜空に届くように大合唱を響かせます。鈴木良朝さんの指揮で来年創立60周年を迎える水戸の名門合唱団・あひる会が登場します。あひる会の最も得意とするルネサンス期のスペインの作曲・ビクトリアの作品〈おお、大いなる神秘〉が演奏されます。さらに、〈アルカデルトのアヴェ・マリア〉、フォーレの〈ラシーヌ雅歌〉、〈オー・ホーリー・ナイト〉が聖夜に捧げられます。ピアノ伴奏は、先にご紹介した12月13日の「水戸の街に響け! 300人の〈第9〉」ではエレクトーン奏者として出演する、久保田彩子さんが務めます。

終演後にはエントランスホールにて、あひる会によるキャロリングを予定しています。伴奏はパイプオルガンが受け持ちます。東京芸術大学オルガン科4年の長田真実さんが演奏します。さらに、今年も、開演前のひとときにもエントランスホールで素敵な歌声が響きます。開場して間もなくの16時30分過ぎからこのウェルカム演奏を開始する予定です。どうぞお早目に会場にお集まりください。

《中村》

最近の公演から

SEPTEMBER



1



2



3



4



5



6



7

Duo La Bilancia ピアノ・デュオ・リサイタル (9月6日)

茨城県立水戸第三高等学校の同窓生である長澤順さんと清水美和さんによるピアノ・デュオ・リサイタル。2人は水戸芸術館の「茨城の名手・名歌手 第18回」(2007年)に同じデュオで出演している。その後、2人の演奏は、より一層磨きがかけてられて、そして今回再び水戸芸術館の舞台に戻ってきた。このように演奏家の皆さんの研鑽に少しでも貢献することができればというのが、私達の願いだ。演奏会の前半はモーツァルト、シャブリエ、ラヴェルの2台ピアノ作品。後半は打楽器奏者の中村文彦さんが加わってデュカス《魔法使いの弟子》とムソルグスキー《展覧会の絵》が取り上げられた。信頼し合い、心を通わせる2人のピアニストによるデュオは、その2人の間柄と同じように温かく、そして多彩な表現に溢れていた。アンコールはサン＝サーンス《組曲「動物の謝肉祭」》から《第7曲 水族館》と《第14曲 終曲》。《中村》

アンケートから ●2台のピアノのアンサンブルが楽しいものであることを再認識いたしました。打楽器が入ると、さらに広がりが出て素晴らしいです。(宇都宮市:A.K.さん) ●珍しい曲目のプログラムだと思うが見事な発想!演奏も見事。打楽器を入れる発想も大成功、編曲も良かった。(つくば市:K.E.さん) ●2台のピアノの息が合い、パーカッションもマッチして素晴らしい演奏でした。美しい音色でした!(無記名の方)

オペラシアターこんにゃく座 オペラ《変身》 (9月15日)

オペラシアターこんにゃく座によるオペラ《変身》が上演された。役を生き生きと演じる巧みな歌役者と、それに負けない存在感を発揮した楽士による音楽と芝居のやりとり。シンプルな舞台セットを表情豊かに生かした演出。時代や地域性を越えて、奥行きを感じさせる台本。これらによって《変身》は現代にも通じる家族や人間の姿を鮮やかに描いた。最後の曲《出発》では、ずしんと胸に響くピアノの音と歌声が力強く劇場に響いた。日本語の響きを生かしたこんにゃく座のオペラは、「オペラの楽しさ」をまっすぐに伝えてくれるものであり、また歌において言葉と音は分かちがたくつながっているということを実感させてくれる舞台だった。《高巣》

アンケートから ●念願のこんにゃく座を生で観ることができて感激しています。ちょっと無理していわきから出てきてよかったです。ACM劇場に初めて入りました。(いわき市:M.I.さん) ●役者さんも舞台演出もとてもよく、面白かった。テーブルがザムザの体になっているところがよかったです。(無記名の方) ●家族という名のしぼり、それゆえ自由になれぬ息苦しさ。依存ともたれ合いで疲れた人々の思いがどう変化していくのか。その過程が、まざまざと表現されているのがこわかった。けど見てよかった。(Y.O.さん) ●カフカの変身を忠実に表現しているなどと思いました。考えぬかれた構成、動き…あれ

1~2. Duo La Bilancia ピアノ・デュオ・リサイタル
3~5. オペラシアターこんにゃく座 オペラ《変身》
6~7. 岡部昌子 ピアノ・リサイタル

だけの内容を実にスマートにユーモラスに描いてすごいです。身体能力もすごくて、そうとう鍛えられているのだなと思いました。私自身演劇でオットラを演じたことがあり、カフカに対して思い入れが強いのので、この公演を観にくることができて本当に嬉しいです。わかりやすいし、音楽もおもしろいのでまた観たいと思いました。ラストの《出発》もとてもよかったです。(水戸市:無記名の方)

岡部昌子 ピアノ・リサイタル(9月27日)

2002年以来、7年ぶりの水戸芸術館でのリサイタル(2006年には水戸ゾリステン室内アンサンブル演奏会への出演あり)。岡部さんは、フランス音楽への特別な愛着とパリへの留学経験などから、フォーレ《主題と変奏》、ショパン《スケルツォ 第4番》、ドビュッシー《前奏曲集 第1巻》という一本筋の通ったプログラムを組んだ。淡白なプログラムと感じた方もいらっしゃるかも知れないが、自分が完全に吸収している音楽と真剣に対峙する岡部さんの誠実な姿勢があらわれたプログラムであった。その岡部さんの姿勢は確実にお客様に伝わったようで、会場からは熱い拍手が送られていた。アンコール曲は、ドビュッシー《ベルガマスク組曲》から第3曲《月の光》。《関根》

アンケートから ●近代フランスの色彩豊かな曲を丁寧でありながら力強い演奏で聴かせていただいた。(水戸市:F.U.さん) ●とても気持ちよく聴かせていただきました。ありがとうございました。(水戸市:H.A.さん) ●フランス音楽の素敵な世界に浸れて良かったです。ドビュッシー、素晴らしかったです。(水戸市:K.D.さん) ●キレイな音で、とても良かった。(常陸太田市:S.S.さん)

速達 *プチ情報*

4月に開催されたMCO第75回定期演奏会関連のリリースが相次ぎます。

まず、CDから。若手実力派ピアニスト小菅優と小澤征爾音楽顧問が指揮するMCOが共演したメンデルスゾーン《ピアノ協奏曲第1番》が、9月30日、ソニー・ミュージックジャパインターナショナルからリリースされ絶賛発売中です(3,045円)。メンデルスゾーン生誕200年を記念するCDで、ピアノ協奏曲のほか、《無言歌集》や《厳格な変奏曲》などの独奏曲も収録されています。なお、これら独奏曲は、7月にここ水戸芸術館コンサートホールATMでレコーディングされたもので、サウンド面でも万全の統一が保たれています。

続いては、ブルーレイとDVD。MCO第75回定期演奏会で演奏された全曲の映像(ブルーレイとDVD)が、11月下旬、水戸芸術館開館20周年記念としてNHKエンタープライズから発売されます(ブルーレイ7,140円/DVD 4,935円)。メンデルスゾーン《ピアノ協奏曲第1番》、劇音楽《夏の夜の夢》のほか、開館20周年を記念して演奏されたバッハ《エア》(第1回定期演奏会のアンコール曲)や小菅優のアンコール曲(メンデルスゾーンの独奏曲)も収録されています。

information

- チケットに関するお問い合わせ
…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000
営業時間/9:30～18:00(月曜休館)
- 公演内容や企画に関するお問い合わせ
…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118
- 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

チケット・インフォメーション

<11月22日(日)発売分>

- ◎Coro la DIVA
1/16(土)14:00 開演
料金(全席指定):一般¥1,500 学生(高校生以下)¥500
- ◎茨城音楽文化振興会 第8回定期演奏会アーリースプリングコンサート
2/21(日)14:00 開演
料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,000
- ◎山口泉恵 ピアノ・リサイタル
2/27(土)14:00 開演
料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,500

<11月23日(月・祝)発売分>

- ◎ニュー・イヤー・コンサート 2010
1/5(火)18:00 開演
料金(全席指定):S席¥5,000 A席¥4,000 B席¥3,000
- ◎モーツァルト:ピアノソナタ全曲演奏会(全6回)
演奏とお話:野平一郎
第5回:1/23(土)18:30開演 料金(全席指定):¥3,000
第6回:3/6(土)18:30開演 料金(全席指定):¥2,500
第5回と第6回の通し券¥4,500(※水戸芸術館のみの取り扱いです)
- ◎スイス・チェンバー・ソロイスト
2/7(日)14:00 開演
料金(全席指定):一般¥3,500 大学生¥1,000 小中高生¥500
- ◎〈ちょっとお昼にクラシック9〉疾駆のアンサンブル
2/19(金)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200(1ドリンク付)

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助席…補助席

- ◎市毛恵子 ピアノ・リサイタル ……11/1(日)自由席○
- ◎佐藤 篤 ピアノ・リサイタル ……11/3(火・祝)自由席○
- ◎水戸バハコレギウム 第20回定期演奏会 ……11/8(日)自由席○
- ◎水戸室内管弦楽団 第78回定期演奏会 ……11/25(水)中央×、左右・裏×、補助×
11/26(木)中央×、左右・裏×、補助×
11/27(金)中央×、左右・裏×、補助×
- ◎クリスマス・プレゼント・コンサート2009 ……12/23(水・祝)中央×、左右・裏△

※10/22(木)現在の状況です。
※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターで
得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。
公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。
※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な11・12月のスケジュール

コンサートホールATM

- 市毛恵子 ピアノ・リサイタル
11/1(日)14:30 開演 料金(全席自由):一般¥2,500 学生(大学生以下)¥1,500
- 佐藤 篤 ピアノ・リサイタル
11/3(火・祝)15:00 開演 料金(全席自由):¥4,000
- 水戸バハコレギウム 第20回定期演奏会 創立25周年記念公演
11/8(日)14:00 開演 料金(全席自由):¥1,500
- 水戸芸術館開館20周年・水戸市市制施行120周年・水戸藩開藩400年記念事業
水戸室内管弦楽団 第78回定期演奏会
11/25(水)18:30 開演 11/26(木)18:30 開演 11/27(金)18:30 開演
料金(全席指定):S席¥13,000 A席¥11,000 B席¥8,000
- アートタワーみと スターライトファンタジー
第14回クリスマスコンサート[市内小中学校 芸術館コンサート]
12/5(土) 入場無料
- 水戸の街に響け! 300人の《第九》
12/13(日)12:00 開演/13:30 開演(2回公演) 入場無料

- 水戸藩開藩400年記念コンサート
400年の歴史とスイート・ジャズの調べ
12/20(日)14:00 開演 料金(全席自由):¥1,000
- クリスマス・プレゼント・コンサート 2009
12/23(水・祝)17:00 開演 料金(全席指定):A席¥3,000 B席¥2,000

エントランスホール

- パイプオルガン プロムナード・コンサート
11月:7日(土)、14日(土) 12月:6日(日)、26日(土)
- 〈クリスマス・スペシャル〉
12/19(土) オルガン:徳岡めぐみ
開演時間:12:00/13:30(2回公演) ※12月6日のみ12:00/13:00
入場無料 ※演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

- 萬狂言水戸公演2009+鑑賞講座「寝音曲」[禰宜山伏]
11/3(火・祝)16:00 開演 料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000
- 「錦繡」
11/15(日)14:00 開演 料金(全席指定):A席¥6,000 B席¥4,000
- ACM塩谷 亮 がよむ「太宰治の世界」
11/23(月・祝)14:00 開演 料金(全席自由):¥500
- 子供たちのクリスマス(五軒幼稚園、国田幼稚園、飯富幼稚園)
12/10(木)10:00 開演 入場無料
- 新作能公演「花供養」
12/22(火)18:30 開演
料金(全席指定):S席¥4,000 A席¥3,000 B席¥2,000

現代美術センター

- Beuys in Japan:ボイスがいた8日間
10/31(土)～2010年1/24(日)9:30～18:00(入場は17:30まで)
休館日:月曜日、年末年始12/27(日)～2010年1/4(月)
11/23、2010年1/11(月・祝)は開館、翌11/24、2010年1/12(火)休館
料金:一般¥800 前売・団体(20名以上)¥600
中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料

茨城の主な12月の演奏会 ※有料公演のみ

◆水戸市内の会場

- 水戸ゾリステン 「クラリネットと弦楽四重奏のタベV」
12/4(金)19:00 開演
会場:カフェ・トロワシャンブル TEL/029(227)7487
- 兼氏規雄・兼氏ちな美 エlegantステージVol.4 「X'masコンサート」
12/5(土)18:00 開演 会場:水戸プラザホテル・チャペルラピュタ
(問)水戸プラザホテル企画室 TEL/029(305)8100
- ◆ひたちなか市文化会館 TEL/029(275)1122
■自主事業 およこdeクラシックVol.3 12/20(日)13:30 開演
- ◆日立シビックセンター音楽ホール TEL/0294(24)7720
■VIVA!! ピアノデュオコンサート トークコンサート 12/13(日)15:00 開演
- ◆日立市民会館 TEL/0294(22)6481
■白鳥英美子 トヴェモアコンサート 12/12(土)18:30 開演
■日立市民吹奏楽団 ポップコンサート2009 12/20(日)14:00 開演
- ◆ギター文化会館 TEL/0299(46)2457
■アンドレイ・バルフィノヴィッチ ギターリサイタル 12/6(日)15:00 開演
- ◆ノバホール TEL/029(852)5881
■第25回つくば国際音楽祭
□パノハ弦楽四重奏団 12/4(金)19:00 開演
■つくばで第九2009 12/29(火)15:00 開演
- ◆つくばカピオホール TEL/029(851)2886
■ケルティック・クリスマス・コンサート アヌーナ 12/5(土)17:00 開演
- ◆小美玉市四季文化館(みの〜れ) TEL/0299(48)4466
■光と風のステージVol.47
「アンサンブル La・mer 星降る夜のクリスマスコンサート」
12/5(土)18:30 開演

水戸芸術館音楽紙「ヴィーヴォ」 2009年10月発行 第145号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130
e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]
編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):大金絢子 佐川真美 関根哲也 高巢真樹 中村晃
DTP/村田征司[株式会社イセフ] 次号は…
印刷所/株式会社あけぼの印刷社 2010年の幕開けは、「浪漫紀行」!!